

「平和の礎」に刻まれた名前の叫び

島しづ子

(日本基督教団うふざと伝道所牧師・
新基地建設反対抗議船船長)

私は 2020 年 4 月から沖縄県の南部にある「うふざと伝道所」に赴任しました。それまでは名古屋市に 45 年住んでいました。以前から辺野古新基地建設に反対して沖縄に来ていましたが、在住 5 年目の今も沖縄の歴史を知らなかったことを実感しています。沖縄には多くの名所があります。何回でも訪れたい場所は平和祈念公園です。平和祈念公園は「沖縄戦終焉の地」糸満市摩文仁の丘陵を南に望み、南東側に陰しく美しい海岸線を眺望できる台地にあります。公園内には「平和祈念資料館」「平和の礎」「平和祈念像」、摩文仁の丘の上には国立沖縄戦没者墓苑や府県、団体の慰霊塔があります。

公園内にある「平和の礎」には、沖縄戦で亡くなった方々 24 万 2,225 名(2024 年 5 月 31 日時)のお名前が国、県や町村別に敵味方区別なく刻銘されています。沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられた方々の(まだ確認されていない方々もいますが)氏名を刻んでいます。「平和の礎」は太平洋戦争・沖縄戦終結 50 周年を記念して 1995 年 6 月 23 日に建設されました。当時の知事は大田昌秀知事でした。

沖縄戦での県の死者は 14 万 9,634 名(2024 年 6 月時)です。沖縄戦で一番死者が多かったのは那覇市の 2 万 9,553 名。続いて糸満市 1 万 1,695 名。南城市は 8,301 名。八重瀬町 7,452 名です(以上 2023 年 6 月時)。沖縄島南部の死者が多いのは、南部が激戦地だったからです。

2 年前から「平和の礎」名前の読み上げが始まりました。6 月 1 日から 23 日までオンライン(Zoom)によって行われるので、世界中から参加できました。私は南城市大里に住んでいますので大里の刻銘された方々の名前を読み上げました。頂いた名簿を見て胸が痛みました。住んでいる町に多くの犠牲者がいたこと。家族と思われる数人が同じ日に同じ場所で亡くなっていること。お名前が無く「〇〇〇の孫」「▽▽▽の二男」

と刻銘された人がいること。亡くなった年齢が 70 歳から 0 歳まで幅広いこと。先にお母さんが亡くなり、残された幼児がその数日後に亡くなっていることなど。名簿から死者の人生が立ち上がって来ました。沖縄戦で沖縄では四人に一人が亡くなったと言われます。けれど三人に一人、二人に一人が亡くなった地域もあり、一家全滅の家もありました。お名前の持ち主が「戦争さえなければ、もっと生きたかった」と語っています。

昨年の 6 月には時間がある限り、刻銘者読み上げを Zoom で見ていました。6 月 1 日午後 9 時 5 分。30 代のお母さんが小学生のお子さん二人と読み上げに参加していました。お母さんが言いました。「私の父は沖縄戦の時、赤ちゃんでした。おばあちゃんは父を抱いたまま亡くなったそうです。おばあちゃんが命をつないでくれたおかげで私たちがいます。その名前を読ませていただきます。『タマキ・マカト 29 歳』」

マカトさんは 1940 年 6 月、爆撃を避けて壕に赤ちゃんを抱いて逃げたのでしょう。壕の中まで米軍の攻撃があり、乳飲み子をかばいました。その赤ちゃんが大人になり、結婚し、娘が生まれ、その子どもたち二人が、会ったことのない曾祖母マカトさんの名前を読み上げました。ただ一人残された乳飲み子にとって戦後は厳しいものだったに違いありません。数字では想像できなかったことを、お名前を読み上げることで知ることができました。「平和の礎」のお名前が「生きたかったよ」と叫んでいます。沖縄の友は言います。「沖縄は戦争につながるものをすべて拒否する！」と。私もこの声を聞いた者として新基地建設抗議船に乗り、戦争反対を訴えています。